

## 5. 統合分野

統合分野目標：保健・医療・福祉制度と他職種の役割を理解し、チーム医療の実践と社会的資源が活用できる基礎的能力を養う。

### 在宅看護論

- 目標：1. 在宅で療養生活をしている人とその家族について理解する  
 2. 在宅療養者と家族の生活を尊重し、自己決定や権利擁護の考え方を深める  
 3. 在宅で療養する人とその家族の生活を支えるための看護を学ぶ  
 4. 在宅で療養する人と家族を支える保健医療福祉の連携と看護の役割を理解する  
 5. 社会情勢を含め在宅看護の現状を理解し、今後の在宅看護のあり方を深める

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	2年		3年
						4～9	10～3	9～12
在宅看護概論	1	30		在宅療養者と家族を理解し、保健・医療・福祉の連携における看護の役割を理解する。	1. 在宅看護・地域看護とは？の目的と特徴 2. 「福祉のまちづくり研究所」施設見学 3. 在宅看護の対象者 4. 在宅療養の基本・法令・制度 5. 在宅看護の制度・しくみ 6. 療養の場の移行に伴う看護 7. 地域包括ケアシステムと多職種連携（GW） 8. 在宅看護のケースマネジメント 9. これからの地域・在宅看護 展望と問題	—		
在宅看護方法論Ⅰ	2	30		疾病や障害を持ちながら療養する人と家族を支えるための看護方法を理解する。	在宅療養を支える看護 1. 在宅ケアとケアマネジメント 2. 在宅介入時期の特徴と看護 3. 在宅における日常生活援助 4. 在宅における医療機器を使用した援助 5. 事例から学ぶ在宅看護技術 演習・GW・発表・振り返り 6. 在宅終末期看護 7. 疾患別在宅看護の実際	—		
在宅看護方法論Ⅱ	1	30		在宅療養者の特性をふまえて疾病や障害に対する健康課題を把握し必要な看護・技術を習得する。	1. 在宅看護をイメージしよう 2. 在宅看護の対象理解 これから求められる在宅看護の役割 3. 在宅療養の場に応じた基本姿勢 4. 事例患者から在宅療養に必要な看護を考える ・情報収集の実際 ・情報から問題の抽出（4側面） ・必要な看護と家族支援 5. 在宅療養に必要な生活援助と医療処置 ・在宅酸素療法とその管理 ・胃腸栄養と管理、 ・気管切開時の呼吸管理（気管内吸引、口腔吸引） ・居宅での入浴介助 ・褥創予防（体圧測定、体位変換） ・廃用症候群予防 ・初回訪問時のマナー（雨天） ・社会資源サービスの提供			
在宅看護実習	2	90		在宅で療養する人と家族を理解し、必要な看護が実践できる基礎的能力を身につける。	1.在宅療養者と家族への看護の理解 2.在宅ケアを支える多職種連携を知る 3. 外来、訪問診療を受ける人への継続看護の理解 4.地域で生活する高齢者の介護予防・健康増進への取り組みの理解 5.看護の場に応じたマナーの理解			

科目名	在宅看護概論		教育内容	統合分野 在宅看護論	
担当教員			単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	
科目目標	1. 在宅看護の目的・特徴を理解する。 2. 在宅看護の対象者を理解する。 3. 在宅看護にかかわる法令・制度と訪問看護制度を理解する。 4. 療養の場の移行に伴う看護を理解する。 5. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携について理解する。 6. 在宅看護におけるケアマネジメントを理解する。				
科目概要	回数	科目内容		担当	学習方法
	1 2 3 4 5 6	科目のガイダンス「地域看護・在宅看護とは？」 在宅看護の目的と特徴 兵庫県立リハビリテーションセンター 「福祉のまちづくり研究所」施設見学 在宅看護の対象者 在宅看護の基本・法令・制度			講義 施設見学
	7 8 9 10 11 12 13 14 15	訪問看護の制度 訪問看護サービスのしくみと提供 療養の場の移行に伴う看護 (医療機関・施設における入退連携) 地域包括ケアシステムにおける多職種連携 (行政・地域包括支援 センター・居宅介護支援事業所・介護サービス事業所・住民) 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント1 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント2 これからの地域・在宅看護について 展望と問題 終講試験およびまとめ			講義 GW
評価方法	1 回の筆記試験 (課題提出・出席点ふくむ)				
教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院				

科目名	在宅看護方法論 I		教育内容	統合分野 在宅看護論	
担当講師			単位数 (時間)	2 単位 (30 時間)	
科目目標	1. 訪問時のマナー・面接技術について理解する。 2. 在宅療養を支える看護の基本を理解する。 3. 在宅における特徴的な疾病のある療養者の看護を理解する。 4. 在宅における医療管理を必要とする人と看護を理解する。 5. 在宅療養者の病期に応じた看護を理解する。				
科目概要	回数	科目内容		担当	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13・14 15	在宅ケアとケアマネジメント 在宅介入時期の特徴と看護 在宅における日常生活援助 (清潔・呼吸・排泄・移動・食生活) 在宅における医療機器を使用した援助 事例問題から学ぶ在宅看護技術 (嚥下障害・便秘・服薬管理・移動・気管切開・自己導尿・胃瘻、 人工呼吸器療法、在宅酸素療法) 演習発表 在宅終末期看護 訪問入浴の実際 疾患別在宅看護の実際 ・脳卒中を起こした方の在宅療養 ・パーキンソン病や指定難病関連の方の在宅療養 ・COPDなど慢性疾患の方の在宅療養 ・精神科領域、独居の方の在宅療養 在宅における日常生活援助演習 (持続的導尿、胃瘻、褥創、清潔、排便処理、バルン管理) 在宅における日常生活援助演習発表と振り返り 終講試験およびまとめ			講義  演習  GW 講義 演習  講義
評価方法	筆記試験・課題・出席点により評価する。				
教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ				

科目名	在宅看護方法論Ⅱ	教育内容	統合分野 在宅看護論
担当教員		単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)
科目目標	1. 在宅看護における看護過程の特性を理解する 2. 事例を通して在宅療養に必要な看護を考える。 3. 在宅療養における生活支援・医療処置の実際を学ぶ。 4. 在宅療養の場に応じた基本姿勢を養う。		
科目概要	回数	科目内容	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	在宅看護をイメージしよう 在宅看護の対象理解 これから求められる在宅看護の役割 在宅療養の場に応じた基本姿勢 事例患者から在宅療養に必要な看護を考える ・情報収集の実際 情報から問題の抽出 (4 側面) ・必要な看護と家族支援 在宅療養に必要な生活援助と医療処置 ・在宅酸素療法とその管理、胃婁栄養と管理、 ・気管切開時の呼吸管理 (気管内吸引、口腔吸引) ・居宅での入浴介助、褥創予防 (体圧測定、体位変換) ・廃用症候群予防、初回訪問時のマナー (雨天) ・社会資源サービスの提供 技術試験 終講試験およびまとめ	講義 演習
評価方法	1 回の筆記試験・看護過程の演習記録・課題・出席点・技術試験 で評価する。		
教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 看護技術プラクティス 学研 看護診断を導く情報収集アセスメント 学研 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ 電子辞書；治療薬マニュアル NANDA-I 看護診断		

科目名	在宅看護実習	教育内容	統合分野 在宅看護論 (臨地実習)
担当教員	㊟	単位数 (時間)	2 単位 (90 時間)
実習目的及び実習目標	(目的) 地域で生活する人と家族を理解し、必要な看護が実践できる基礎的能力を身につける。 (目標) 1. 在宅で療養する人と家族への看護がわかる。 2. 在宅で療養する人と家族を支える社会資源と関係職種との連携がわかる。 3. 外来、訪問診療により継続的な医療を受ける人への看護がわかる。 4. 地域で生活する人への介護予防・健康増進への取組みがわかる。実習要項 参照		
科目概要	科目名	科目のねらいと主な内容	時間数
	在宅看護実習	地域で生活する人を支える取組みが理解でき、在宅で療養する人の総合的支援及び療養者と家族の看護を学ぶ。	90
			実習施設 訪問看護ステーション 診療所 地域包括支援センター
評価方法 評価基準	在宅看護実習の評価表に基づき評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ その他 実習状況に合わせて既習学習した教科書、資料、文献を活用する。		

## 看護の統合と実践

- 目標：1. 看護の対象を広い視野で理解する。  
 2. 国際社会、災害現場、臨床現場における生命の尊厳について考察する。  
 3. 臨床実践に近い形で知識と技術の統合を行い、評価の重要性を理解する。  
 4. 看護におけるマネジメントとチームアプローチの重要性について考察する。  
 5. リフレクションの重要性を理解し、専門職業人としての自覚を養う。

科目名	単 位	時間	講 師	科目のねらい	主な内容	2年		3年
						9～12	1～3	4～1
看護と マネジ メント	1	30		看護における医療安全を再認識し予防・回避行動を考える。	1. 医療事故に関する概念 2. 医療事故防止の取組み 3. 危険予知トレーニング 4. 多重課題における優先順位 5. シミュレーション演習 6. 事故とリフレクション	—		
	1	15		臨床実践能力の管理的側面を意識し、看護の本質を深める専門職業人としてのあり方を明確にする。	1. 看護とマネジメント 2. 看護ケアのマネジメント 3. 看護サービスのマネジメント 4. マネジメントに必要な知識と技術		—	
災害と 国際 看護	1	30		基本的な災害看護の知識と技術を理解する。 グローバル化を視野に入れた国際社会における看護について理解する。	1. 災害医療・災害看護 2. 応急処置・心配蘇生術 3. グローバルヘルス 4. 異文化理解と看護の国際化 5. JICA事業の理解と看護実践			—
看護 技術の 統合	1	30		看護実践力に必要な知識・技術・態度を統合し、看護をマネジメントする基礎的能力における自己の課題を明確にする。	1. 「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」から技術実践における技術向上の実践 2. 看護実践力に必要な知識・技術・態度の統合 3. 安全性・正確性・効率性を考えた看護実践力のリフレクション 4. チームの連携・協働と看護ケアの優先順位を考えた看護実践 5. チームに必要なメンバーシップ			—
統合 実習	2	90		地域や社会で生活する対象者の特性を捉え、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。	1. 健康の維持・増進、疾病予防 2. 一次・二次予防における健康支援の実際 3. チーム医療における看護チームの機能とメンバーシップ 4. 安全性・正確性・効率性を考えた看護実践力のリフレクション 5. 臨床実践能力に必要な自己の課題の明確化			—

科目名	看護とマネジメント		教育内容	統合分野 看護の統合と実践
担当教員			単位 (時間)	2単位 (45時間)
科目目標	1. 医療事故の概念を理解する。 2. 医療安全とリフレクションやコミュニケーションの関連を理解する。 3. 転倒と誤薬防止のための看護を理解する。 4. 医療事故防止のための病院、病棟の取組みを理解する。 5. 看護をマネジメントする基礎的知識を理解する。 6. 組織と看護管理について理解する。			
科目概要	回数	科目内容	担当	学習方法
	1 2 3 4・5 6・7 8・9 10 11 12・13 14 15	病院における医療安全対策 病院における感染予防対策 医療安全の考え方 危険な薬剤の理解 (チューブ管理含む) リスクセンストレーニング 多重課題について 看護業務に必要な計算 (薬剤・速度・酸素ボンベなど) 論理的に考える医療安全 シミュレーション体験演習 (多重課題の実際) 体験からのリフレクション 終講試験およびまとめ		講義 演習
	1・2 3・4 5 6・7 7.5	看護とマネジメント 看護ケアのマネジメント 看護サービスのマネジメント マネジメントに必要な知識と技術 終講試験		講義 演習
評価方法	2回の筆記試験により評価する。			
教科書 参考書	医療安全ワークブック 医歯薬出版 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理 医学書院			

科目名	災害と国際看護		教育内容	統合分野 看護の統合と実践
担当教員			単位 (時間)	1単位 (30時間)
科目目標	1. 基本的な災害看護の知識と技術を理解する。 2. グローバル化を視野に入れた国際社会における看護について理解する。			
科目概要	回数	科目内容	担当	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7・8 9・10 11・12 13・14 1 5	災害医療 災害の種類と特徴 応急処置・心配蘇生術 震災迫体験 グローバルヘルス JICA事業の理解 災害看護のまとめ 国際看護のまとめ 終講試験およびまとめ		講義 演習
評価方法	1回の筆記試験、出席点、レポート課題により評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3]災害看護学・国際看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 I 看護学概論 基礎看護学技術 I・II 医学書院			

科目名	看護技術の統合		教育内容	統合分野 看護の統合と実践
担当講師			単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)
科目目標	1. 看護実践に必要な知識・技術・態度を統合し、今後の課題を明確にする。 2. 安全性・正確性・効率性を考えた看護実践力を振り返り、自己の課題を明確にする。 3. チームで連携・協働して看護ケアの優先順位を考えた看護実践ができる。 4. チームで連携・協働することでチームに必要なメンバーシップを考える。			
科目概要	回数	科目内容		学習方法
	1・2・3	「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」から		講義 演習
	4・5・6	技術実践における到達状況をまとめる		
	7・8・9	事例患者に対する必要な情報をまとめ看護を導き出す		
	10・11	看護実践力に必要な知識・技術・態度		
	12・13	看護ケアの優先度・判断指針		
14	「看護師教育の技術項目」に対する実技復習・理解度テスト			
	15	今後の自己の課題 まとめ		
評価方法	1 回の筆記試験、実技試験「評価表」、出席点、提出課題により評価する。			
教科書	看護技術プラクティス 学研 医療安全ワークブック 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院  その他、既習の教科書、資料、文献を活用する			

科目名	統合実習		教育内容	統合分野看護の統合と実践 (臨地実習)
担当教員	㊦		単位 (時間)	2 単位 (90 時間)
科目目標	(目的) 地域や社会で生活する対象者の特徴を捉え、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。 (目標) 1. 健康の維持・増進、疾病の予防に必要な一次・二次予防における健康支援の実際を学ぶ。 2. 看護管理の実際を学び、チーム医療における看護チームの機能とメンバーシップを学ぶ。 3. 経験した実践をリフレクションすることで臨床実践能力に必要な自己の課題を明確にする。 実習要項 参照			
科目概要	科目名	科目のねらい	時間数	実習施設
	統合実習	・健康の維持・増進、疾病の予防における施設の役割や機能を学ぶ ・健康の維持・増進、疾病の予防における看護援助の実際を学ぶ ・看護管理の実際やチーム医療における看護チームの機能と役割を学ぶ ・複数患者の受持ちを体験し、チームの一員の役割とメンバーシップを学ぶ ・リフレクションからの確かな看護判断や適切な看護技術に必要な自己の課題を明確にする	90	病棟 市民健康開発センター 診療所
評価方法 評価基準	統合実習の評価表に基づき評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会 看護技術プラクティス 学研 電子辞書；治療薬マニュアル、症状からみる看護過程の展開 NANDA-I 看護診断 その他、実習状況に合わせて既習の教科書、資料、文献を活用する			